

検定種目 合格率	◎ 良かった点（成果）	× 悪かった点（課題）
① プルーク ボーゲン  86.5%	基本動作と運動要領を理解し、スムーズな運動が出来ていた。	理解不足により、屈曲伸展のリズムが取れていない受検者がいた。 過度な外傾姿勢のため、角付けが緩む受検者がいた。センターポジションの理解不足の受検者がいた。
②滑走プルークから 基礎パラレルター ンへの展開  83.3%	一般的には種目のねらい、要領を理解して滑っている受検者が多く良い傾向であった。	ターン前雪面の捉えが遅い受検者がいた。 上体のローテーションによるターン始動を行う受検者がいた。 展開という運動課題が未熟な受検者がいた。
③基礎パラレル ターン（小回り）  97.9%	種目の理解度も高く安定した滑りが見られた。	エッジコントロールが適切に行えず、回転弧とスピードのコントロールが出来ていない受検者がいた。
④横滑りの展開  93.8%	重心移動がスムーズにできている受検者が多かった。	適切なくの字姿勢が出来ず腰が回る受検者がいた。 同時運動、同時回旋、同側エッジングの運動課題が適切にできていない受検者がいた。
⑤シュテムターン  93.8%	ターンの切り換え時において、谷脚の伸展にあわせて山スキーを開きだすタイミングが概ね理解されていた。 斜度変化に対応した、センターポジションがキープされていた。	ターン後半からニュートラルにかけて後傾姿勢になるため適切にターン始動時のポジションがとれない受検者がいた。 ターン後半の回転弧とスピードのコントロールが適切でない受検者がいた。
⑥パラレルターン 大回り  92.7%	ポジションが安定していて、荷重動作とエッジングが適切に表現されていた。 急斜面における回転弧とスピードのコントロールが概ねできていた。	外スキー荷重が出来ておらず、外スキーの捉えが甘く横ずれの多い滑りが見られた。 上体のローテーションによるターン始動が目立ち、結果横ずれの多い滑りが見られた。
⑦パラレルターン 小回り（不整地）  95.8%	スピードをコントロールした安定した滑りが多かった。	スタンスが広すぎるため、不整地斜面にうまく適合できず、リズムが取れていない受検者がいた。 斜面の固い状況に合わせた適度なエッジングができていない受検者がいた。
⑧総合滑降 リズム変化  99.0%	ゲレンデコンディションも良く、積極的な滑りが多く見られた。 リズム変化の運動課題は概ね上手に表現されていた。	慎重な滑りとなり、総合斜面によるスピードと回転弧のリズム変化をうまく表現できない受検者がいた。

検定種目 合格率	◎ 良かった点 (成果)	× 悪かった点 (課題)
① プルーク ボーゲン  86.5%	屈曲、伸展の運動が出来ていた。 外スキーへの荷重(働きかけ)が正確に出来ていた。	切り換え時に狭くなるなど、スタンスに変化が見られた。 重心が内側に入る滑りや、内脚のインエッジの捉えがあまり滑りが見られた。
②滑走プルークから 基礎パラレルター ンへの展開  71.9%	脚の運動をしっかり活用し、外スキーへの荷重を強めて滑走性を高めていた。 滑走プルークから基礎パラレルターンへ、一貫した運動要領で行われ、スタンスの変化も明確に見えた。	脚の運動要素が少なく、上体のローテーションでターンをしている滑りが見られた。 正しいセンターポジションがとれないため、切り換え時に伸展しながらスキーが下を向く滑りや外脚への荷重が出来ず滑走性が上がらない滑りが見られた。 急激なスタンス変化が見られた。
③基礎パラレル ターン(小回り)  78.7%	等速でスピードコントロールされていた。 適正なリズムで、脚の屈曲、伸展が上手に表現されていた。	両脚での同調運動が出来ず、シュテム動作になる滑りが見られた。 過度なローテーションによりズレが多い滑りが見られた。 屈曲・進展の運動を正確に表現できず、内倒や腰から折れている滑りが見られた。
④横滑りの展開  69.7%	適度な外向傾、スピード感がみられた。 脚の運動を活用して切り換えが出来ていた。	脚の運動要素が少なく、交互動作での切り換えが見られた。 脚の荷重動作による外向傾姿勢が出来ず、重心が山側に残る滑り、滑走スピード不足や真下方向への落下が出来ていない滑りが見られた。
⑤シュテムターン  82.0%	脚の運動が正確に出来ていた。 外スキー荷重、ターン姿勢の入れ換えが出来ていた。 シュテム動作が明確に見られた。	脚の運動要素が少なく、上体を回して切り換えたり、ターン姿勢の入れ換えが出来ず内倒している滑りが見られた。 脚の運動とシュテム動作のタイミングがあっていない滑りが見られた。 滑走性がなく、種目の理解不足があった。
⑥パラレルターン 大回り  67.4%	種目の理解が深く、積極的な滑りが見られた。	過度なローテーションや内倒する滑りが見られた。 脚の屈曲、伸展ではなく、傾きだけで切り換える滑りが見られた。 外脚への働きかけ(荷重)が足りない。
⑦パラレルターン 小回り(不整地)  80.9%	コース状況が悪い条件でも、スピードがコントロールされ、コブの中でもしっかりとターン弧を描いていた。	両脚の同調運動が出来ず、シュテム動作となる滑りが見られた。 上体のローテーションや交互動作の滑りが見られた。
⑧総合滑降 リズム変化  91.0%	外スキー荷重動作が適正に行われ、滑走性の良い滑りが見られた。 リズム変化が明確に表現されていた。	ターン内側への意識が強く、外スキーの捉えがあまりなる滑りが見られた。 ポジションが悪く、ターン弧の調整が出来ず、スピードオーバーになっていた。